

こうごろう新聞

ひびき愛コンサート

大成功！

七月二日福祉プラザで行われたコンサートは幸五郎が企画した通り、皆さんに大感動していただき、成功のうちに幕をとじました。そもそもこのコンサートは新鮮組が、補助金の申請をして、コンペに参加して偉そうな先生方の審査の結果、見事、落選した企画でした。その理由は企画が杜撰だということでした。終って見て振り返ればまことに緻密で計画的で立派なコンセプトのもとに整然と実施されました。審査した先生がいかにふしあなか見てもらいたかった。残念ながら、区の職員も出席しなかったが。

このコンサートの基本コンセプトは町内出身の大作曲家福井先生を取り上げる事でした。これは幸五郎のまちおこしの原点です。コンペの時に福井家の了解を取り付けてない事とメインになる三女高の出演が決定していないと指摘を受けました。実際には、二つ共水面下で接触していましたが補助金が出るか出ないかははっきりしないのに正式な了解は取り得ないのが普通である。幸五郎は落選した事に対してリベンジすべく五月末から星空コンサートの実行委員長にしてくれと組合にたのみこんだ。そして無理矢理就任して戦闘を開始したのである。コンサートは七月二日だから一ヵ月から毎週一回の企画実行委員会を昼時を利用して開いた。福井家との交渉は私が五月末に来仙した福井先生の息子さんと仙台ホテルではじめて面談した。時間の都合でたった十分間のあわただしい初対面でした。福井先生そっくりのとても温和な顔立ちの方でした。東京の昭和飛行機で働いておられました。私の隣に住んでいる親友の菊田氏が昭和飛行機と取引があったという事で、後日上京の節、邦彦氏と対面していただきくわしい資料と仙台の菩提寺まで調べてなおかつ彼に墓参までしてもらいました。有名な三女高は昨年も毘沙門さんのお祭に出演してもらいましたが、なんといっても陰の力を発揮してくれたのはOGの柏木のYさんでした。詳しく書くと彼女のプライベートになるのではぶきますが、彼女の先祖は荒町出身、両親ともども荒町の大ファンです。こんな応援団が幸五郎にいるのです。電話一本で、今年も、三女高の音楽担当の桑折先生にお会いして、心よく出演してもらいました、とはいえ骨の折れる仕事でした。

そんな中でお店番をしていたら、声の美しい女性が買い物に来ました。知さんという方でした。勿論お顔も温和ないいひとです。福祉プラザで朗読のボランティアをしているという。幸五郎は朗読を聞くのが大好きです。彼女の声を聞いて突然ひらめいてしまいました。仙台フィルのメンバーの弦楽と一緒にコラボレーションは出来ない物かと考えました。早速、会いに行きました。会長さんは、これ又美人会長さん。声が仕事故、転がるように話をします。おそろおそろお願いをしましたら、心よく引き受けていただけました。

さて、福井先生につくった校歌等は何百曲もありますが、地元の荒町小、三女高の校歌、仙台一高の行進曲を選びました。荒町小の校歌は誰が指揮して、誰が歌うか、地元の荒町小学校に頼んでみたが、時間外という事で小学校からは色よい返事はなかった。まず、歌うのは少年野球のこどもたちにユニホームを着て歌ってもらうことにした。だが指揮者までは幸五郎の頭になかったのである。ところが、ひよんなことで、若林の中央市民センターの高橋先生を訪ねて、この話をしたら、若林合唱団の工藤先生を推薦してもらいました。ところが先生の奥さんは何と荒町の八百屋さんの娘さんで、幸五郎も知っている人でした。さて、このイベントのもう一つの立役者がいました。ピアノの先生の赤井さんです。赤井さんはご主人とひとり息子と家族ぐるみで私の大ファンです。十数年来のお付き合いです。息子さんは、今年見事に一高合格したのです。この赤井家との接点で、一高OB合唱団に出演していただくことになり、ピアノの伴奏も赤井夫人にさせていただくことになりました。工藤先生と一緒に赤井先生のピアノ教室を訪問して、荒町小校歌と行進曲の打合せもしていただきました。工藤先生も福井先生の弟子というのも幸五郎オドロキでした。

さて、前日又又、ドラマがありました。福井先生とコンビで作詞をしていた橋浦先生が我が店にやって来たのです。先生は東北大文学部の先生をなさって、今回のコンサートにぜひ来ていただくよう、お手紙えを差し上げてありました。突然、幸五郎さんですか、橋浦ですといわれた時、私もビツクリしてしまいました。丁度

十年前、荒町小百二十周年の時、先生の家におうかがいしてインタビューをしたので、初対面ではありませんでしたが八十三歳との事、とてもお元気そのものでした。音楽会当日は、私の誕生日で、友達とのむことになっているので出席出来ない。便箋二枚に手紙を書いて、わざわざタクシーで持ってこられたのです。手紙の中には福井さんと仲良しコンビで、福井先生が言葉に非常にさびしい半面とても、人間味あふれる方でしたと、今、生きている人のようなたしなみを文章で手紙がつづられてありました。当日会場で幸五郎が先生に成り代り、それこそ朗読させていただきました。

さていよいよ当日となりました。七月二日は幸五郎は東京出張の予定が入っていました。組合の幹部からは何でいないのと総スカンくいました。準備をチャントしたから、後はあんた方がチャントやれといいました。朝五時におきました。六時の新幹線、八時十五分秋葉原、神田で、雑貨の仕入れ、九時四十分新木場経由、東京ビックサイドに向かう。昼飯食べる時間がないのでコンビで牛乳とパンを買う。十時半～十三時迄、文具の見本市を見る。大井町経由品川のホテル。十三時四十分につく。文具ポランタリーチェーンの総会にのぞむ。長野の文具店社長の話を聞く。二時四十五分、東京駅発、四時四十分仙台についた。そのまま会場へ、福祉プラザに四時五十分着いた。三女高の生徒さんが集まっていた。さすが、準備は事前に手配していたので私がいなくとも、皆さんにやっていただけました。朗読の会と仙フィルの練習、三女高のリハーサルもこの現場で行われました。だから、六時前からすでに始まったようなものである。前の日の夕刊に、河北の杉田記者に頼んで、福井文彦さんの事をトップ記事で書いてもらったので、お客さんの入りは上々でした。

三女高の校歌ではじまりました。皆さんふるえて聞いておられました。去年の毘沙門さんの祭に引きつづきの出演、陰で努力してくれた方もいました。森山直太郎のさくらを聞きながら彼女らの熱唱に聞きほれました。次は荒町小のこどもたち。荒町小に協力をお願いしたが、指揮の先生、こどもの動員が出来なかったので、自分で指揮者をお願いして歌うことも。ところが少年野球のこどもたちが赤ユニホームを着て、参加してくれました。その前に帆乃花と和佳奈と我がまごたちが普段の服をきてうたいました。とてもかわいいコーラスになりました。一高OBの合唱団もこの二週間前をお願いしたばかりでしたが、二十人も、背広姿で福井さんの作った行進曲などを歌っていただきました。

二部は仙台フィル星コン応援隊の弦楽四重奏。メンバーの中心、大友君のトークもたのしかった。そして最後は私の企画した朗読会と弦楽とのコラボレーション。私が考えた通りのスバラシイ組合せとなりました。最後は皆で坂本九の星に願いを皆さんと合唱して幕となりました。この日の情景を詳しくお伝えできにくいのは残念ですが、出口で皆さんのあのうれしそうな顔顔を見てやってよかったと私も満足でした。アンケートを書いてもらいました。全員 印のお答えが帰って来ました。

亘理町で講演した

七月八日に県の教育委員会から、亘理町で講演してとたのまれた。役所なので、安い講師料で面白い話をする人はあまりいない。ちょうどあんばいいいのが幸五郎であった。町長さんも出席しての今年度の生涯教育初顔合わせの会議後の講演でした。三十名ですが、皆さん、亘理を代表する偉い人ばかりでした。

電車が便利なので三十分で亘理駅についた。役所の人を迎えに来るのかなあとウロウロした。それらしい人はいなかった。なんと駅舎の上に近代的なお城があって、ここが図書館で、会場であった。時間があったので図書館に入って、伊達邦茂のこの本をよんでみた。あらまは明治維新で職を失った武士の行末について、殿様が北海道開拓に行った話である。交通のままならぬその時代にどんな決断をしたのか、伊達邦茂さんは素晴らしい方である。1時間も待たされて、三時から始まった。話はまくらが大切、亘理には、猪股君という親友がいた。十年ほど前に亡くなって、その葬式の話からはじまった。葬式の会場の門前でぼんやりしていた

ら『甲辞 出雲幸五郎さん』と云われて、とんでいった。原稿無しで甲辞を奉呈した話で皆さんを笑わせた。そのあとはいつも荒町でやっているまちおこしの話を一時間おしゃべりした。まとめに、伊達邦茂公が明治維新のとき部下を失業させないため、北海道の有珠に何千人も移住した、その決断をたたえ、今の時代にこう決断が出来るかどうか、町長さんはじめ三十人の方に逆に問うてみた。文化勲章をもらった岩田さんという方がいたそうですが、全国レベルの人材を育てることが今の教育にもとめられるのではないかと話をむすんだ。

行きも帰りも在来線にのった。三十分でつくので、亘理も便利だ。帰りの電車の中で女子高生がパンツを取り替えていたのにはおどろいた。そのあげくにはケータイでオシャベリ。話には聴いてはいたがどうなっているのだろうか、教育が基本。町長さん以下生涯教育の先生方、がんばって下さい。

孫とわんこそばたべた

七月二日。割引のJRの切符を買って東京に行って来て、三日迄有効だったので、孫の航之助（五才）和佳奈（七才）と三日の日曜日、新幹線で盛岡に行って来ました。どこに行くあてもなし、朝八時、新幹線に飛び乗った。盛岡駅について、小岩井行きのバスにすぐまにあったので、小岩井農場に行くことにした。梅雨じきにしてはカラットはれて岩木山がバスの行く手にドーンとすわっていた。こういう山があるから、岩手には人が育つのである。三十年ぶりの小岩井だが国道から入ってからも十分もかかって農場に到着。本当にひろびろとしている。これをつくつた三菱の岩崎弥太郎はえらい。場内の奥に岩木山が鎮座し、ひろびろとしたみどりの座敷がずうっとずっとひろがっている。そんなひろいふところの中で孫たちは、無心に遊びました。

三十年前、息子と娘が小学校の夏休みにつれて来て以来、いまその子らといっしょにいられる幸五郎は本当にしあわせである。しあわせはお金でないとしみじみ実感させられました。ディズニーランドよりこっちの方がすばらしい。自然がいちばんである。さて、帰ろうと思って、表に出たら航之助のリュックサックがない。バスのなかか、農場の中か本人、思い出せない。受付に名刺をおいて出て来たら送って下さいとたのんで来た。帰途バスの中で航之助五才だがシューンとしていた。ひろめしは約束のわんこそばにした。孫たちは初体験、隣のお兄さんたちが百杯もおわんをかさねているのを見て、びっくりしてしまつたらしい。じいちゃん六〇杯、和佳奈四〇杯航之助三十三杯たべました。孫たち、おもしろいと興奮しつつ盛岡にリュックサックをおいて又新幹線マックスで帰仙しました。

ぼけたらあかん

長生きしなはれ

- 一、年を取ったら 出しゃばらず憎まれ口に泣きごとに人のかげ口ぐちいわず他人の事はほめなはれ 聞かれりや教えてあげても知つてることでも知らんふりいつでも阿呆でいるこっちや
- 二、勝つたらあかん負けなはれいずれお世話になる身なら若いもんには花もたせ一歩さがってゆずるのが円満にいくこつですわ、いつでも感謝忘れずにどんなときでもへえおおきに
- 三、お金の欲はすてなはれなんぼゼニカネあつたとて死んだらもつていけまへんあの人にはええ人だつたそらえに人から言われるように生きているうちにバラまいて山ほど徳を積みなはれ
- 四、そやけどそれは表向きほんまはゼニを離さずに人にはけちやと言はれてもお金があるから大事にしにんなベンチャラいうてくれる内緒やけれどほんまだっせ
- 五、昔のことはみな忘れ自慢ばなししなはんわしらの時代はもうすぎたなんぼ頑張り力人でも体がいうとききませんあんたは偉いわしやあかんそんな気持ちでおりなはれ

六、わが子に孫に世間様どなたからでも慕われるええとしよりになりなはれボケたらあかんそのために頭の洗濯生きがいに何かひとつの趣味をもちせいぜい長生きしなはれや